

## 平成26年度 全国学力・学習状況調査

### 国語分析

A・Bとも全体的に京都市・府や全国平均よりも大変よくできていた、本校生徒の普段からの取り組み姿勢が反映されている結果でした。領域別の顕著な偏りもなく、同じ領域内でも、良くできた問題もあれば課題の残るものがありました。

その中で、今年度の本校3年生は古典の理解やおもしろさ、書写に関する知識の応用に高得点が目立ちました。また記号選択よりは、叙述の仕方などを確かめて適切に書き換えたり、心情にふさわしい言葉に書き換えるなどの記述式の問題などにがんばりを見せていました。さらに抽象的な概念を表す語句が示すものについての理解を問う問題も、高い正答率でした。

反面、文脈の中での語句の意味の理解について、辞書的な意味を踏まえて、文脈に即して意味や効果を捉えることや、文脈に即して漢字を正しく書く問題には課題が見られました。これらは、難しいことですが、意識しながら学習を積み上げていけば、自ずと力がついていくでしょう。

1・2年の国語の授業で、グループで話し合ったり、調べたりする活動を、京都府や全国平均に比べて大変よくしていて、自分の考えを発表する機会も多く持っているデータ結果で、いい経験を重ねていました。しかしそれが自分の自信につながっているとはいえず、随所に自信のなさが京都府や全国平均に比べて現われる結果でした。このことは、話し合いや紙で自分の思いを伝えて交流することにより、自分の考えを広げたり深めたり、見通しをもって話し合いを進行する難しさを実感している裏返しともいえるでしょう。

今後これらの課題について、教室でも意識して取り組んでいきたいと思います。

### 数学分析

数学A、Bともに全国・府の平均正答率よりもかなり上回っており、普段の学習の成果が出ていると思われる結果でした。

計算分野、関数分野など知識に関する問題は、ほとんどの問題で全国平均よりも高い正答率でした。しかし、その中でも1年生の内容である不等式や図形の移動、反比例、資料の活用の問題で数問、正答率が半分程度だったものもあり、1年生の既習内容を忘れているのではないかという課題が見られました。次に、図や言葉を用いて説明する問題（主に活用の内容）では、証明の問題やグラフの特徴を読み取って説明する問題で正答率が半分程度だったものがあり、事象を読み取ったり、言葉で表現したりすることや証明の筋道を考えたりすることに課題が見られました。しかし、A問題と同様に、B問題においてもほとんどの問題で全国平均よりも高い正答率を取っていたことは評価できると思います。

数学の学習はあまり好きではないが、やらなければならぬと思っている生徒が多く、その姿勢は授業でも見られます。数学が苦手な生徒も、どうにかして問題を解決しようと粘り強く取り組んでいたり、グループ学習では、悩んでいる生徒に他の生徒が懸命に教えている姿もあり、少しずつではあるが全体の学力の底上げになっていると思います。また、授業の最初に行っているスピード80による5分間学習の成果が、計算分野の高得点につながっていると思います。今後は、課題に見られた1年生の内容の復習や証明の筋道の説明、グラフなどから情報を読み取る活動も授業の中で、意識しながら取り組んでいきたいと思います。

### 生徒質問紙（生活調査）

同様の生活アンケートを全校生徒に対して毎年実施していますが、京都市や全国的な状況と比較してみて特徴的な点をあげてみたいと思います。起床時間・睡眠時間・朝食など、決まっている・ほぼ決まっているなど望ましい態度に回答している生徒は平均的ですが、「決まっている」「している」など「断定的」な回答を避け、「ほぼ」と回答する傾向がいくつかの項目で見られます。また、チャレンジ精神や物事を成し遂げた成就感・自尊感情・自己肯定感・コミュニケーション能力・表現力などはいずれも全国平均を下回っており、家庭での学習時間はやや少なく、テレビやゲームをするはやや多く、読書や宿題はしっかり出来ているが、学校の授業の復習はあまりしていない様子が伺えます。

以上の結果やその他のアンケート結果から見えてくる姿は、あまり冒険をせず言われたことをきちんと行い、素行や態度も真面目だが、自発的な活動や開拓していく力は弱く、自己有用感や自尊感情に乏しい感じがします。自ら学び、自ら失敗を恐れず突き進んでいく中から得られる成就感や、他者との交流から生まれるコミュニケーション能力や自己有用感を育成していくことが課題と言えるのではないでしょうか。